

俺たちの旅

校長 武井 正明

昔、日曜の夜8時といったら俺たちガキンちょは「8時だヨ！全員集合」だった。

しかし、親戚のお兄ちゃんたちは「俺たちの旅」だった。

私が「俺たちの旅」と出逢ったのは、無味乾燥な高校時代。受験に落ち自業自得なのに不貞腐れ、部活にも入らず、毎日判で押したような退屈な日々だった。当時はよく夕方に、ドラマの再放送をやっていた。そのうちのひとつが「俺たちの旅」だった。

中村雅俊扮する自由奔放に生きる津村浩介（カースケ）何をやってもダメな中谷隆夫（オメダ）、いつも決められずグズグズしている熊沢伸六（グズ六）の3人が織りなす青春物語。そこには自分が密かに憧れている青春像があった。

当時の自分には何もなかった。熱中できるものも、自信も。つまらない日常だけがただ繰り返されていた。そんな時、この再放送の、あるシーンに釘付けになった。

カースケに想いを寄せる洋子は、純粹すぎる浩介を心配して忠告する。

「誰だって人を裏切らないといけないときがあるのよ…人は裏切ったり裏切られたりしながら、成長していくのよ」…そこに思わずカースケの平手打ちが飛ぶ。

「どこで読んだんだ、そんなこと…何の本に書いてあったんだ？…おまえ、人を裏切るってことがどんなことか知ってんのか？……裏切ったことあんのか!!」

洋子のことが好きなオメダは、彼女を慰め、日頃いい加減なカースケを非難する。しかし、洋子は自分に向けられたカースケの眼差しは真剣だったと言い、叱られたことが嬉しかったと返す。つまりこの瞬間、隆夫は洋子に失恋するのだ。

既に散々人を裏切り挫折し、生きるのが面倒臭かった自分には、このカースケの言葉が直球で突き刺さった。…俺もカースケみたいに生きてみたい…。

以来ずっと私は「俺たちの旅」ファン。息子が生まれたら名前は絶対「浩介」に、と決めていた。弟も「浩介」は最有力候補だったが「兄貴の長男の名前だから」と遠慮した。私に男の子は授からず、一人娘だから、幻の「浩介」となった。浩二よ、すまん。

その「俺たちの旅」が五十年ぶりに映画となって、2026年1月に復活するという。こんな嬉しい話はない。五十年経ったあの3人は今この時代を、どう生きているのだろう…。

時代がどう変わろうが、人生において大切なものは不変だ。今の、未来ある吉中生を見ていると、尚更伝えたくなる。

人生をどう生きる？人を好きになるとは？本当の友達とは？兄弟とは？仕事とは？親子とは？…このドラマには、そのヒントがいっぱい詰まっているのだ。

※来週月曜日のお昼の放送「オススメの本の紹介」で『俺たちの旅 青春編』鎌田敏夫（角川文庫）を紹介します。